

## 自宅で香港をリアル妄想できるオンラインツアーにハマっています！

NPO 法人日本香港協会 広報委員 隅田 香織

「さあみなさん、これから九龍城をご案内しますよ！ついてきてくださいね！」

私はこれから香港人ガイドに香港の街を案内してもらっています。iPadの画面に大好きな香港の風景が広がっています。コロナで大好きな香港に渡航出来ない今、オンラインツアーに参加して香港をリアル妄想旅するのが私の楽しみです。初めて参加したのは旅行会社の九龍城オンラインツアーでした。

旧啓徳空港と隣接していた九龍城は下町風情が残っていて、渡航するたびに訪れるくらい好きな街です。お気に入りの調味料のお店、大好きな茶餐廳、そして猫好きの私としては看板ネコが多いということも、この街が大好きな理由のひとつです。ちょうど旧正月前ということもあり、街に旧正月飾りが増えていました。

「あ！新しいお店が増えてる！今度行ってみよう！」  
「ああ、やっぱり旧正月の雰囲気はにぎやかでいいな。またこの時期に渡航したいな」



オンラインツアーは今のリアルな香港の様子、季節を感じることができます。

「今日はちょっとこのお店でお買い物をお願いしますね！」とガイドさんがお店の人と話す広東語、街市（市場）のにぎやかさ、あのカチカチ……と鳴る信号の音など、「リアルな香港の音」もたまりません！まるで自分が香港にいるような気がしてしまいます。今はまだ香港に行くことはできませんが、こうしてオンラインツアーで「今の香港」の雰囲気と音を感じながら妄想するのも楽しく、私はこれ以降、何度もオンラインツアーに参加しています。パソコンやタブレット、スマホからでも気軽に見られる手軽さも気に入っています。茶餐廳での食事を妄想したり、香港の夜景を妄想したり、街歩きを妄想したり……。逆にこうした香港の楽しみ方は、今しかできないかもしれません。

九龍城へは6月27日にMTR屯馬線が開通し、宋皇臺という駅ができました。いつもはバスかタクシーで行っていた九龍城ですが、次に香港に行ったらMTRで九龍城に行ってみよう！と私はオンラインツアー後も、次の香港旅行のために妄想しています。



### 〈プロフィール〉

隅田香織 / NPO 法人日本香港協会広報委員。ブログ「香港ウンチク話」管理人。2021年8月よりHIS主催「香港ウンチク話・香港妄想オンライン旅行」（リンク先：QRコード）を“添乗中”。

2021年9月発行（禁無断転載）

### 目次

自宅で香港をリアル妄想できるオンラインツアーにハマっています！……1  
「香港日本人学校OBOG再交流の広場」（オンライン座談会）第4回……2  
私と香港ビジネス～33年目を迎えて……4  
香港はより力強く、さらにその先へ……5  
パンデミックを乗り越え、日本企業の皆様を「ビジネス継続」の未来へ……6

#### 連合会・各協会便り

全 国：アジアフォーラム2021-ウェビナーとZoom会議……7  
東 京：第50回ビジネス懇話会開催報告……8  
第4回法人会員交流会開催報告……8  
関 西：アジアの華人ネットワークとしたたかな香港の事業家達……9  
中 京：5年前の香港フォーラムを振り返って……10

九 州：九州日本香港協会通常総会開催  
九州日本香港協会 新事務局「株式会社ふくや」のご紹介……11  
山 形：山形日本香港協会会員紹介 株式会社丸屋本店（後編）……12  
北 海 道：北海道日本香港協会会員 日本清酒株式会社ご紹介……13  
宮 城：香港貿易に対する宮城県取組み／学生部の活動……14  
沖 縄：香港の高級スーパーマーケットにおける沖縄産品の  
動向について……15  
広 島：ビジネスセミナー「香港ビジネス環境の現状と未来」の  
開催……16  
新 潟：新潟日本香港協会令和3年度通常総会を開催……17  
高 知：高知発！食の6次産業化プロデューサーによる香港市場開拓  
……18

## 「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会) 第4回

ゲスト：岩崎昭宏さん、前田一郎さん、  
 松村（鳥丸）祐子さん、松本哲也さん  
 司 会：伊東正裕（NPO法人日本香港協会 広報委員）  
 構 成：平野純一（NPO法人日本香港協会 広報委員）  
 撮 影：ジャッキー鶴丸（NPO法人日本香港協会 広報委員）



(上段左より) 岩崎さん、前田さん、松村さん  
 (下段左より) 松本さん、伊東、平野

**伊東** 本日は、1958/59年生まれ世代で、60年代後半から70年代初めに香港日本人学校に通った同級生4人の方々に集まっていただきました。皆さんの時代の校舎は銅鑼湾のタワーコートでしたよね。

**前田** はい、我々の頃はずっとタワーコートです。

**松本** 大きなマンションの中にある校舎でしたよね。

**—60年代の香港といえば、深刻な水不足でしたが、給水制限がありましたよね。**

**岩崎** はい、バスタブに水を溜めていたのを覚えています。

**松本** 父がワトソン水（蒸留水）を買い足して、家に大きなボトルが何本も並んでいたのを記憶しています。

**松村** ベランダに大きなドラム缶があってそこに水を溜めていました。中に落ちるといけないので、親から「中を覗いちゃダメ」と言われていました。

**伊東** 夏には大きな台風もよく来ましたね。

**岩崎** ビクトリアハーバーの軍港に旗が上がって、その色で台風シグナルがわかりました。

**前田** 私の家は九龍側で、まだ海底トンネルがなく、台風が来るとスターフェリーが止まり学校も休みになるので、嬉しかったですね。大型台風の時は、猛烈な風でエアコンが部屋の中に落ちて、ガラスも割れて大変でした。

**松本** うちのフラットは古かったので、ベランダの戸がボンと開いて、それを父親といっしょに押さえたことがありました。

**岩崎** 私の家はポーエンロード（寶雲道）でしたが、フラットは前に何もなかったなので、風がもろに当たってすごかったですね。

**—皆さんは子供達だけで遠出をしていたのでしょうか。**

**前田** はい、九龍南端の駅から列車に乗って沙田によく

遊びに行っていました。ボートに乗ったりしましたね。  
**岩崎** ボートに乗っていたら、沖に流されて帰ってこれなくなっていましたね。

**松村** 私は前田さんが漕いでくれたボートに乗った記憶があります。なんだか同じところをグルグル回っていたような。

**前田** ちゃんと漕げていなかったのかな（笑）。

**松本** 沙田ではみんなでソフトシェルのから揚げを食べましたね。僕らはませた子供だったんですよ（笑）。

**前田** 親も偉かったね。あの当時、よく子供たちだけで遊びに行かせたと思います。

**岩崎** 沙田には貸し自転車もありましたね。ボートや自転車に乗って、カニを食べて……よい冒険でした。

**松村** 当時の日本人学校の先生は生徒にいろいろ経験させてあげたいと頑張ってくださっていたようですね。大浪湾でキャンプをしましたが、あれは日本人学校で初めてのことだったとか。あと、修学旅行がないのが可哀想だと、どこかに1泊しに行きましたね。

**前田** それはランタオ島のYWCAです。今では空港がランタオ島にあって高速鉄道でつながり、隔世の感ですね。

**松本** あと、学校が終わると屋台でいろいろと買い食いをしていましたね。10セントでフカヒレスープと同じ味のスープがありました。

**岩崎** あれはフカヒレだったのかなあ。10セントでフカヒレはありえないよね。

**伊東** それは蛇のスープではないでしょうか。

**前田** フィッシュボールも食べましたね。警察の取り締まりが来ると屋台は逃げてしまうんだけど。

**岩崎** 気がついたら屋台はいなくなっていて、オレたちだけが残っていて……（笑）。

**前田** スターフェリーのデイリーファームのソフトクリームもおいしかったな。

**松本** あれはスターフェリーの1階（下層）だけでしたね。私もソフトクリームを食べたいから1階ばかり乗っていました。

**—皆さん大変な冒険家ですね！当時の屋台で食べたりして、お腹こわしませんでしたか。**

**岩崎** まったくなかった。鶏の足や、豚の鼻なども屋台で食べたけど、1回もあたってことはありませんでした。

**前田** 子供の頃に“アジア雑菌”で鍛えられたから、大人になって海外赴任しても平気だったのかな。私はインドでもまったく大丈夫でした。

**—皆さんが香港に行かれた時は、大陸は文化大革命で、香港でも暴動があった頃ではありませんか。**

**岩崎** 私が住んでいたところの隣が英国の海軍司令官の家で、そこで爆弾が爆発して大変でした。幸い死傷者は出なかったようですが、翌朝見に行ってみると、コンクリートが割れている痕がありました。

## 【香港日本人学校・同級生の座談会】

**松村** あの頃は、ちょうど暴動の真っ最中だったのでね。香港に着いたその日の夜から、街中でボンボンという爆発の音がしていました。母は「道に箱とか落ちていても拾ってはダメ」とよく言っていました。

——その他、香港の思い出といえば、やはりおいしい中華料理でしょうか。

**前田** やっぱり中華料理は香港が世界で一番じゃないかな。

**岩崎** 大陸に比べたら、香港の方が断然おいしいよね。

**前田** シンガポールに駐在しましたが、やはり香港だね。

**伊東** シンガポールは香港に敵わないでしょう。台湾よりも香港の方が旨いです。

**松本** 私は台湾に8年住みましたが、台湾料理より香港の広東料理の方が断然上なんじゃないかな。

——就職してからも皆さんグローバルに活躍されていますが、やはり香港の経験は大きかったのでしょうか。

**岩崎** そうですね。英国の植民地なので、当然英国人は多いですが、その他にも世界中から来て香港で働いているので、狭い場所に世界のすべてが集まっている感じでした。仕事で米国に5年住みましたが、世界中の人が集まっているという意味では米国よりずっとすごいと思います。

**松村** 私は計3回、香港に住んだので、自然に国際的な感覚が身についたと思います。1回目は小学3年生から中1まで、2回目は高校生でインターナショナルスクールに入り、大学は米国に行きました。3回目は夫の転勤で、ロンドン、バーレーン、そして香港に住みました。

**伊東** すごいですね。まさに国際人です。

**松村** 日本人学校時代も同じフラットに住んでいる外国人とよく遊んでいましたし、そういう環境が普通でした。夫の転勤で海外に出た時も、バーレーンでは日本人より現地人の友達の方がたくさんできました。その友達に誘われて、夜な夜なベリーダンスを踊ったりしました。

**前田** 私も入社後、米国、インドネシア、インド、シンガポールと計16年間、海外駐在しましたが、やはり香港の経験があったから将来はグローバルな仕事をしたいと思ったのです。インドではニューデリー日本人学校の理事長を務めました。その時も卒業式などで「この場所で学んだ経験は将来きっと役に立ちます」という話をしました。また、海外にいるからこそ、日本のすばらしさ、ありがたさも分かります。

**松本** 私も米国、台湾、上海に駐在しましたが、やはり子供の頃に香港に住んだことでグローバルな感覚が身についたと思います。もし香港にいなかったら、今ごろどうしているのかなあ。あの時の経験があるから海外でも違和感なく生活できるんでしょうね。今は海外駐在も珍しくなくなりましたが、私たちが香港にいた当時は、まだそれほど多くなかったから、親同士も親しくなって家

族ぐるみのお付き合いでしたよね。

**松村** 日本人学校の生徒は皆おおらかでしたね。帰国して日本の学校で驚いたのは、試験の答案を返されると、みんな隠すんです。隠しても点数が変わるわけじゃないのに。香港でそんなことをする人は誰もいませんでした。あと、お弁当も他の人に見られないように蓋で隠しながら食べるんです。カルチャーショックでしたね。

**伊東** それは日本ならではの不思議な現象ですね。

**松村** それでなんとなく日本の学校にはなじめなくなって、父の2度目の転勤の時、高校生になっていましたが、自分から「香港に行こう」と思えたとし、そういう意味では、私の中身の大部分は「メイド・イン・ホンコン」だと思っています。

**松本** 日本人学校では、成績で競い合うなんてなかったもんね。

**岩崎** ありえなかったですね（笑）。

——2016年の香港日本人学校創立50周年の記念誌に、松本さんと前田さんの作文が載っていました。松本さんは「こちらに来て4年になるが、あまり帰りたとは思わない」、前田さんは「ホンコンにいるうちに、英語やカントン語をおぼえたり、いろいろなものを見たり聞いたりしたい」と書いておられましたね。

**前田** 懐かしいですね。我々の学年は私が行った時は男子7人、女子14人で全部で21人。人数が少ないこともあって、つながりが強かったですね。

**岩崎** 土曜日は、学校の帰りはみんなでバスルート変更をして、ピークに行ってよく野球をしましたね。

**松本** 岩崎くんの家にはピークで野球をするたびに寄っていたかな。よく友達の家には遊びに行っていたよね。

**岩崎** うちがトラム沿いだっただけだからね。本当にあの頃が懐かしいですね。

**伊東** 本日は皆さま、お忙しいところオンライン座談会に参加していただき、有難うございました。まだまだ話は尽きませんが、近い将来お会いできるのではと期待しております。



校舎バルコニーでの集合写真（1970年）後列左から3人目が岩崎さん、同4人目が前田さん、同5人目が松本さん、前列左端が松村さん

## 私と香港ビジネス～33年目を迎えて

NPO法人日本香港協会 理事 藤江 成宏 (OOCL日本代表)

1988年12月、私はOOCLの香港本社勤務の命を受け香港啓徳空港に降り立ちました。飛行機の窓から見える街並が急に大きくなり、はっきりと海上の波や建物が視認できたと同時に、奇妙な棒がマンション群からよきよきと突き出ている事に気がきました。飛行機が、棒の先端に当たるのではないかと危惧するほどの至近距離をかすめて着陸したことが、当時の興奮と共に思い出されます。その後、それが竹の物干し竿であったことが判明、私の日本での生活だけで作られて来た固定観念は覆され、静かな衝撃を感じずにはいられませんでした。現地の生活文化に即した考え方を持てないと、仕事も大変であろうと大きなヒントをもらった発見だったと思います。また、空港で迎えてくれた湿気を大量に含んだ暖かく何とも言えない独特な香りを伴った空気が二番目の衝撃でした。後々香港への出張を繰り返すたびに「香港に戻って来た」と思わせてくれる、象徴的な愛すべき空気感との初めての出会いでした。

### ◆ビクトリア・ピークと飲茶

香港へ赴任して、先ずはピークへ行きたいという気持ちが強かった私は、不慣れながらピークトラムに乗って、何とかピークへたどり着いた時には既に周りは暗く、写真で見たあの素晴らしい夜景が目の前に広がっていたのが昨日の事の様に思い出されます。ちょうどクリスマス前でしたから、ビルのイルミネーションは特に賑やかで、スノーマンも多くその存在を誇示していたと記憶しています。ピークからの夜景は香港の情熱やエネルギーが凝縮された凄さ、カラフルさ、美しさ、迫りに溢れ、その後仕事で苦しんだり悩んだりした時に必ず訪れる心の拠り所ともいべき場所となっています。

香港の食といえば飲茶。初めて訪れたレストランでは、ワゴンに山高く積まれた蒸籠の中に何が入っているのか、漢字表記のメニュー名だけでは分からず、片っ端から蓋を開けてもらい、中を見て注文をしていました。また、近くのテーブルで美味しそうなものを発見するとそれを指さしてオーダーするという、周りの迷惑も顧みない独自の注文方法を編み出しました。その時々に見知らぬ地元の方たちの温かい手助けを戴いたこともあり、今では香港人の友人たちが呆れるほどに、飲茶が私の香港での常食となっています。

### ◆「スズキさん」から「フジエさん」に

さて、肝心の実務ですが、気が張った状態で初出社を迎え、一通りの挨拶を終えて、業務アサインも確認し元気に初日を終えた二日目から、私にとっての「事件」の始まりでした。当時アジアを統括するボスから「おはよう、スズキさん」と声掛けをされ、当然「いえ、私はフジエです」と訂正をするのですが、何とこの訂正活動が向こう3ヵ月間続くことになるのです。来る日も来る日も「おはよう、スズキさん」「いえ、フジエです」の

繰り返しでした。風物詩のように延々と繰り返された朝の挨拶ですが、4ヵ月目に入った朝、私の前に現れたボスが遂に「おはよう、フジエさん」と声をかけてくれたのです。危うく「いえ、スズキです」と答えてしまいそうになりましたが、その日以降、名前を間違われることはなくなりました。その後日本へ帰任することになった私は、ボスとの面談の際に、何故最初の3ヵ月間私をスズキと呼んだのか尋ねてみました。「わざわざ日本から赴任させている君が、特筆する仕事もせずにいる事を良しとしなかったのだ」というのがその返答でした。実は私は3ヵ月目に担当マネージャーから過去に例のないプロジェクトを任されていました。私にとって初のチャレンジでしたので、この時ばかりは必死に取り組み、また相手先は米国にいる状況でしたから、時差の関係で会社に泊まり込みが続き、苦勞の末にようやく報告書が完成したのは3ヵ月目も残りあと一週間という時でした。報告書がボスの目に留まり、その翌週つまり4ヵ月目の初日に例の「おはよう、フジエさん」へ繋がったというわけです。つまり、物見遊山は許さない、来た以上は評価をされる仕事をせよ、それが認められるまでは私は日本から来た「誰か」にすぎず、日本人に多い苗字であるスズキと私を呼び続けたのだとわかりました。この時の経験が後々の私の仕事への取り組みに大きく影響をした事は言うまでもありません。またこのボスとの出会いなくして今の私もないと思わされるほど貴重な経験でした。その後2000年に再び香港本社プロジェクトのリーダーとして招集された時には「スズキさん」と私を呼ぶ取締役会のメンバーが一人もいなかったのは、あのボスのお陰かなと思いました。

1988年以来一緒に仕事をした香港の仲間たちとは今でも連絡を取り続けています。彼らの篤い友情、また日本で発生した自然災害への支援行為にはいつも感心すると同時に感謝の念を禁じえません。今も私が香港を愛し、第二の故郷の様に感じるのもこの三十数年間の友人たちとの交友の賜物であり、また国際人として育てて頂いた諸先輩方のお陰と感謝をしてやみません。昨年来の新型コロナ感染症の為、往来が出来ない閉塞感を感じながらも、IT技術のおかげであたかも隣にいるように対話や近況報告が出来るのがせめてもの救いですが、やはり、気の置けない香港の友人たちと一緒に、お互い元気なうちに世界のどこかへ合同旅行をしたいと考える今日この頃です。また、機会を捉えて心の拠り所となっているピークを再訪し、新たな香港との出会いを楽しみたいと考えています。



左は当時の OOCL CEO Andy Tung 氏、右が筆者 (2017.9.1)

## 香港はより力強く、さらにその先へ

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部 首席代表 何珏珊（ジョイス・ホー）



この度、紙面を通じて日本香港協会の会員の皆さまにご挨拶を申し上げ、香港の最新情勢をお伝えできることを大変うれしく思います。

昨年11月に香港特別行政区政府の駐日代表機関である香港経済貿易代表部の首席代表に就任し、香港と日本の経済貿易関係、相互理解と協力、文化・観光交流を促進するとい

うミッションに取り組んでいます。香港と日本は長年、ビジネスや観光、文化・学術交流など多方面で緊密な関係を築いてきました。香港は過去16年間、日本の農林水産物と食品の輸出先として世界の座を保持しており、香港で事業を営む日本企業数は約1,400社と外国企業として最多です。香港の最近の状況に関して日本でも懸念する声がありますが、香港について明るい見方を裏付ける十分な理由があることをご説明したいと思います。香港はより力強く立ち上がりつつあり、前に進み続けているのです。

世界各地と同様に、香港も新型コロナウイルスの世界的流行で大きな打撃を受けました。昨年1月に最初の感染が確認されて以来、香港では政府を挙げて、積極的な検査・追跡、ソーシャルディスタンス措置を含む各種の感染拡大防止策を通じた厳格な対応を取ってきました。世界的な基準から見て香港はパンデミックにうまく対処してきており、6月初旬以降、地元での感染はほぼ封じ込められています。ワクチン接種プログラムは今年2月に開始し、9月までに接種率7割達成を目指しています。香港での流行状況が沈静化したことを受け、8月9日からは日本からの旅行者もワクチン接種を完了していれば香港への入境が可能になりました。

こうした状況を背景として、香港ではすでに戦略の軸足を経済の立て直しと雇用の創出に移しています。香港政府は企業を支え、失業を防ぎ、困窮者を支援するため、これまでに約390億米ドルを注入しました。第2四半期の経済成長率は前年同期比7.5%で、香港経済は勢いを増しつつあります。中国本土経済のすばやい回復に後押しされ、今年の実質GDP成長率は3.5~5.5%になると予測しています。失業率も17年ぶりの高水準となった7.2%から、1年前のレベルにまで改善しました。

昨年6月に国家安全維持法が施行されて以来、香港は社会の秩序と安定を取り戻しました。住民と企業は国籍にかかわらず、引き続きその権利と自由を享受しています。事業活動への脅威がなくなったため、景況感も回復しており、在香港日本国総領事館、ジェトロ香港事務所と香港日本人商工会議所が、在香港の日系企業を対象に

実施した7月の調査では、21年4~6月の業績が前四半期と比較して「改善」と回答した企業の割合は37.9%で、1年前の調査の22.6%から約15%増加したことが示されました。

香港の金融市場は回復力を示すばかりでなく、活気を一層増しています。新規株式公開（IPO）調達額ランキングで香港は、過去12年のうち7年で世界一でした。2020年7月からの1年間に香港で調達されたIPO資金は640億米ドルを超え、50%以上増加。香港ドル高も続いています。5月末時点で香港の総預金残高は前年比5%増の1兆9,150億米ドルに達し、昨年末時点の運用純資産額も2019年末から約20%増加しました。

加えて、基本法の下で保障されている香港独自の強みは引き続き盤石であり、一切損なわれていません。これには「一国二制度」、法の支配、独立した司法、資本と情報の自由な流れ、英語の使用、住民の基本的権利、知的財産の保護が含まれます。9,000社もの海外・中国本土企業が香港に拠点を置き、その44%が地域統括本部や地域事務所であることは、香港に対する企業の信頼の証です。

香港は日本との関係を大変重視しています。当代表部が4月に開催したオンラインセミナーで、林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官が日本のビジネス界に向けて自ら講演を行ったのもその表れと言えるでしょう。セミナーで林鄭長官は「一国二制度」の下、香港は自由で開かれた社会であり続けると改めて明言するとともに、8,600万人の人口を擁し、GDPは合計で1兆7,000億米ドルに達する広東・香港・マカオ大湾区に生まれる商機を、香港をパートナーとして捉えるよう日本企業に呼びかけました。

今年3月に発表された中国の第14次5カ年計画（2021~2025年）で、香港の位置付けはさらに強まりました。中国本土は、国際金融・貿易・輸送センター、またアジア太平洋地域における法律・紛争解決サービスセンターとしての香港へのサポート強化に加え、国際的なイノベーションとテクノロジーのハブ、国際航空ハブ、東洋と西洋が出会うアートと文化の国際交流ハブ、そして地域の知的財産取引ハブとしての香港の発展を支援します。香港は前途に広がる無数の発展機会をつかむべく、全力を傾けていきます。

これまで香港は数多くの試練を乗り越え、その度に前よりも力強い姿で立ち上がってきました。この先も香港は中国の急速な発展から生まれる機会を最大限に活用し、信頼できるパートナーとして共に歩んできた海外企業と繁栄を分かち合います。同じように、香港と日本の固い絆が今後ますます強くなり、香港と日本が緊密に協力して中国本土の膨大なチャンスをつかんでいくことを信じています。

## パンデミックを乗り越え、日本企業の皆様を「ビジネス継続」の未来へ

香港貿易発展局 コーポレート・コミュニケーション・エグゼクティブ 村瀬 絵美

未曾有のパンデミックは私たち香港貿易発展局のミッションの枠組みにも大きな影響を与えています。従来、私たちの活動の主流であったフィジカルな展示会は、新型コロナウイルスの世界的蔓延以降、渡航制限などの影響を受け、バーチャル3Dブース、オンラインビジネスマッチングやビデオ会議システムを取り入れたオンライン展示会へと舵を切ることになりました。

また、パンデミックに打ち克つ販路拡大プロモーション手法として、BtoBの電子商取引（EC）プラットフォーム「hktdc.com Sourcing」にAIやディープラーニング、自動認証システムなどを導入し、バージョンアップを図りました。データベースに登録されている世界各国のサプライヤー13万社と200万人のバイヤーを効果的に連結することにより、年間約2,400万社のビジネスコネクションを創出しています。

一方、ワクチン接種をはじめとする諸々の感染症対策が講じられ、渡航制限の緩和が期待される中、香港貿易発展局では、地場サプライヤーとバイヤーがリアルに出逢うことを可能にしつつ、海外とはオンラインで繋がることのできるオンラインとオフライン複合型ハイブリッド展示会も導入して参ります。本来、2021年春に開催が予定されていた香港ギフト&プレミアム・フェアや香港ファッション・ウィークなど7つのフィジカル展示会を統合した「インターナショナル・ソーシング・ショー」は、香港貿易発展局主催の初のハイブリッド展示会で、3月のオンライン開催では1,400を超える出展者が参加、131ヶ国・地域から約23,000名のバイヤーがオンラインでの調達を行いました。

3月にオンライン開催されたコンテンツ展示会「香港フィルムアート」には、81ヶ国・地域から670社の出展者と7,000名の来場者をお迎えしましたが、日本からは、73社の映画製作配給会社、全国各地のテレビ局、フィルムコミッションが出展、総務省主導のもと各出展者が「オールジャパン」体制で、日本のコンテンツ販売及び

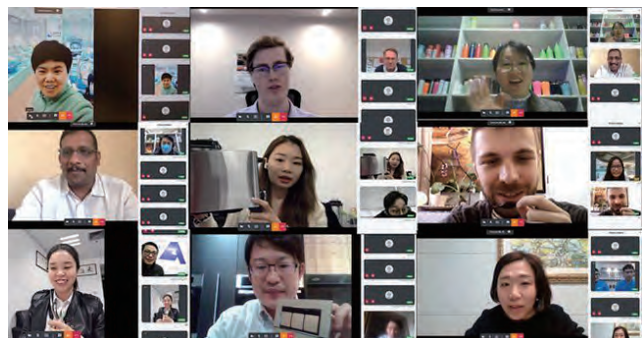


香港ブックフェア ジャパンパビリオンにて  
(左) フルーツバス停 (右) ご当地キャラクター中継

ロケ誘致を展開しました。期間中、総務省主催による最新テレビ番組を紹介するセミナーや、日本貿易振興機構（ジェトロ）のサポートによるビジネスマッチングも行われました。

7月14日には2年ぶりとなる待望の第31回「香港ブックフェア」が幕を開けました。同時開催の「香港スポーツ&レジャーエキスポ」と「ワールド・オブ・スナック」（初開催）と併せ、760以上の企業・団体が出展、7日間で約83万人が来場しました。会場では、感動溢れる文学作品から、著名作家によるトークショー、スポーツ・レジャーのアクティビティに加え、世界各地の人気スナックが堪能できるなど、充実した夏の風物詩となりました。中でも多くの来場者の注目を集めたジャパン・パビリオンにおける体験・交流企画は大きな反響を呼びました。日本政府観光局（JNTO）を筆頭に兵庫県、和歌山県、香川県、福岡県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、そしてKADOKAWAとJTBの計12団体・社がブース出展し、初の試みとして、香港の会場と日本各地を結ぶライブ中継を行うなど、積極的なインバウンド誘客PRを行いました。とりわけ、「映えスポット」として有名な長崎県諫早市のフルーツバス停の特別展示、琉装エイサーの衣装に身を包んだスタッフが来場者を出迎えた沖縄ブースは人気を博しました。また熊本、宮崎、鹿児島、南九州3県は連携し、ご当地のキャラクターを活用したステージイベントで観光やご当地グルメをPR、会場を大いに盛り上げました。最終日の午前中には用意した観光パンフレットやノベルティがすべてなくなるほどの盛況ぶり、「早く日本に行きたい」という声が多く寄せられました。

2021年の後半からはコロナが終息に向かう1年になると予想されています。香港貿易発展局では、ポスト・コロナを見据え、香港をイノベーション拠点として海外へ羽ばたこうとする企業を最大限にサポートすべく、今後多岐にわたるハイブリッド展示会や国際会議、セミナーを開催して参ります。今回初開催となる『アジア・グローバルヘルス・サミット』もそのひとつです。どうか、ご期待ください！



インターナショナル・ソーシング・ショーのオンライン展示会では、7,000以上のビデオ会議が開催され、パンデミックの中でバイヤーと出展者が商談を行いました



## 日本香港協会全国連合会 事務局

## アジアフォーラム2021-ウェビナーとZoom会議

去る6月10日（木）アジアフォーラム2021がオンライン方式で開催され、オーストラリア、カンボジア、インドネシア、日本、韓国、中国本土、マレーシア、ミャンマー、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの13か国・地域から合計78名のメンバーが参加しました。日本からは連合会のほか、東京、関西、九州、宮城、広島の各地協会から合計14名が出席しました。

アジアフォーラムは香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide, 以下Federation）が主催する年に一度の地域フォーラムで、アジア・オセアニア地区の香港ビジネス協会メンバー間の関係を強化し、ビジネスネットワーク構築を目的としています。



アジアフォーラム参加者の皆様

本フォーラムでは、冒頭に「国際イノベーションハブとしての香港—アジア企業にとっての新たなチャンスとパートナーシップ」と題するウェビナーが開催され、香港貿易発展局の東南アジア・南アジア地域総代表ピーター・ウォン氏、香港貿易発展局研究部副主任ビリー・ウォン氏、ゲストとしてFung Omni Services社のMichelle Leung氏、ヘルスケア・イノベーションのChi Man Lam氏が登壇し、香港・中国本土の経済状況、最新のe-コマースソリューション、ヘルスケア・イノベーション等についての情報を共有しました。

アジアフォーラム2021 ウェビナーの動画は下記URLより御覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=V7WHLxy9-t8>

ウェビナー終了後に開幕したアジアフォーラム本会議では、最初にFederation会長デニス・チュー氏による歓迎の挨拶があり、その後下記の各地代表者の方々から、事業報告・計画についての発表がありました。

1. 中国香港（地区）商会（Hong Kong Chamber of Commerce in China, HKCCC）会長 Amy Siu氏
2. 日本香港協会全国連合会会長 佐藤征洋氏
3. 香港マレーシア・ビジネスアソシエーション（HKMBA）理事長ディクソン・チュー氏
4. 香港ニュージーランド・ビジネス・アソシエーション

ン（HKNZBA）理事長 Andrew Sayers氏

5. カンボジア香港ビジネスアソシエーション（Hong Kong Business Association of Cambodia HKBAC）会長 Tom Kimson氏

日本からは、全国連合会の佐藤征洋会長が、各地協会が過去1年間に主催したイベント報告を中心にプレゼンテーションを行いました。オンライン開催となった香港フォーラム2020では全世界からの700名の参加者のうち、日本勢は179名を占め、一国からの参加者数としては最大規模であったこと、とりわけ、関西協会からは上田安子服飾専門学校より60名のヤング・エグゼクティブ・プログラムへの参加があったことが報告されました。プレゼンテーションの最後には、2021年4月に在香港日本国総領事館・JETRO香港・香港日本人商工会議所が在香港の日系企業を対象に実施した「第7回香港ビジネス環境アンケート」の結果に触れ、国家安全維持法導入に対する日系企業の意識について、洞察を共有しました。とりわけ、日本人ビジネスパーソンの79.7%が今後の最大の懸念がコロナ禍による出入国制限と回答したこと、また日本企業本社の対香港評価は28.8%が悲観的という結果となっていますが、香港駐在員の69.3%はその原因が日本におけるマスメディアの悲観的な報道が原因であるという分析についても紹介しました。

各国の代表者からの発表の後には、Federation事務局のIrene Hau氏より2021年度香港フォーラムならびに来期の役員選挙についての最新情報の発表がありました。本年の開催日は11月30日（火）と12月1日（水）の2日間、9月中には、開催方式（現地リアル開催かオンライン開催か）が確定する予定です。また、本年は2021-2024年任期の常任委員会選挙が実施されますが、次期会長は欧州地区、副会長は米州地区、Honorary Treasurerはアジア・オセアニア地区、Honorary Secretaryが欧州地区からそれぞれ選出されることが伝えられました。

閉会挨拶において、デニス・チュー会長は、Federationが担っている政府と民間組織間、東洋と西洋間の懸け橋としての役割の重要性を強調、これまで支えてくれたすべての皆様への感謝の念を表しました。

アジアフォーラム2021ハイライトは下記のページより御覧いただけます。

<https://www.hkfederation.org.hk/regionalforum/asia/2021>



佐藤会長からのプレゼンテーション



## 第50回ビジネス懇話会開催報告

4月28日、第50回ビジネス懇話会が2年ぶりに学士会館にて開催されました。東京では、開催直前に3回目の緊急事態宣言が発令されたため、協会としての決行可否判断がギリギリまでずれ込み、ハラハラドキドキで当日を迎えることとなりました。会場では、検温、消毒、換気のほか、席の間隔を確保するなど、感染予防に細心の注意を払い、安心・安全な運営を心掛けました。今回は亜細亜大学都市創造学部の後藤康浩教授に「米中冷戦の激化と中国産業の行方」をテーマにご講演をお願いし、現在表面化している米中貿易摩擦問題を中心に、ご自身の調査に基づいてお話いただきました。習近平国家主席が目指している国家としての方向性、またそれによる国際競争力の向上について産業毎の解説がありましたが、国際特許出願件数や研究開発費は、まさに米中で1、2



第50回ビジネス懇話会

位争いをしていくという現状を目のあたりにして、日本の行く末を憂えてしまったのは私だけではないでしょう。

また、特に興味深かったのは、米中対立は「三つ巴の戦い」であるという分析です。共産党・国有企業の北京と市場経済・民間企業の深圳が対立、深圳とワシントンは先端技術で競争し、さらに北京とワシントンが米中覇権で争っているという見解は極めて斬新で、認識を新たにしました。さらには、産業立地構造の変化、つまりハイテク産業は脱中国・先進国回帰（質的シフト）、ミドルテクはベトナムなど南アジアへ移転（量的シフト）、労働集約型産業と内需向け産業のみが中国内残留といった傾向がみられるとのことでした。一方、米中が各々編成するブロックにおいて、互いに相手陣営への依存を回避するため、産業分断や人的分断が起きるなどの問題が顕在化しています。このような中、日本の立場も微妙になっています。民主主義国家として米国と同じブロックに属する日本ですが、中国とは経済・文化面では不可分な関係にあり、二者択一というわけにはいかないからです。最後に香港の将来についてもお話いただき、全体として参加者の



後藤康浩教授

方々からは高い評価を頂戴することができました。コロナ禍の中、無事に本懇話会が開催できたことに対し、関係者の皆様には厚く御礼を申し上げます。

## 第4回法人会員交流会開催報告

6月21日に開催された第4回法人会員交流会では、在香港日本国総領事館の高田真里首席領事兼経済部長をメインスピーカーにお迎えしましたが、法人会員17社・団体からの29名にとどまらず、個人会員、理事、各地日本香港協会からの参加も得て総勢74名が集結する大規模オンラインイベントとなりました。佐藤会長からの開会挨拶、法人会員紹介に続いて始まった高田首席領事の基調講演では、先ず一国二制度の具体的内容をご説明いただき、2019年以降の香港情勢の流れ、つまり2019年の逃亡犯条例に対するデモから2020年の香港国家安全維持法の制定・施行、さらには本年の選挙制度改革に至るまでの経過について詳しく解説いただきました。また、これらに関連する中国・香港の体制と陣容の紹介と、中国中央との関係、国安法施行後の経済・社会状況、コロナ対策などについても触れていただきましたので、これまでのどの情報より正確且つ広汎な香港情勢を知ることができたと思われまふ。我々の最大の関心事である日本＝香港の往来については、日本がBグループに振り分けられ、条件が改善されたとはいえ、今なお厳しい隔離期間が設けられているため、当分は香港に行けない事を改めて実感しました。なお、香港は2021年に入って以降、経済的には回復基調に転じていますが、質疑応答でも多数の質問が出された香港の経済面での優位性は不変とのコメントがあり、参加者一同胸を撫で下ろしました。



法人交流会

その後、法人会員を代表して、SL Creationsの木坂明博主任とリカー・イノベーションの東寛人取締役役に、それぞれ香港における事業展開をご紹介いただきました。財務省の輸出統計によると、香港向けの日本食品・農林水産物と酒類はコロナ禍でも成長が続いておりますが、お二人のお話から「日本食」がいかに香港の人達に愛されているかを窺い知ることができました。両社が今後ともさらに香港等で業績を伸ばされるよう、協会としても応援したいと考えております。交流会は2時間以上にわたる長丁場となりましたが、ご登壇いただいた方々、最後までご視聴いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。





## 関西日本香港協会 会長 戒田 真幸

### アジアの華人ネットワークと したたかな香港の事業家達

10年以上前から「これからはアジアの時代」、「新しい潮流としての華人ネットワーク時代の到来」と言われてきました。中国の清朝末期の19世紀後半～20世紀初頭に主に中国の華南地域（広東、福建、海南島）から東南アジアに出稼ぎ移住した人達が事業に成功し、東南アジアの経済発展に多大な貢献をしています。日本や中国にとって、これから先も安定して成長するアジアは最重要マーケットです。国際的なネットワークの香港ビジネス協会世界連盟に所属する日本香港協会は、香港貿易発展局がアジアの主要都市に営業拠点を持つ「華人ネットワーク」への唯一の入り口であるとの思いを強くしています。新しくアジアを目指す会員企業のお役に立てるでしょう。

国際金融都市、中国ビジネスの拠点として発展してきた香港は、中国の発展にとって大事な拠点としての存在感を増しています。香港と中国の政治が安定すれば、香港は急成長している中国大湾区の経済発展と共に成長することが期待されています。

私が香港の銀行に勤務した1980年代（1982～1987）に香港の中国への返還問題が動き出しました。中国化する香港の将来に不安を抱く香港人が多数海外に移住し、株や不動産が売られて暴落しましたが、したたかな香港人は暴落した株や不動産を買って大儲けした人も沢山いました。中国の文化大革命で香港の市場が大揺れに揺れた時代には、香港を代表する財閥グループ、長江グループの李嘉誠が香港フラワーで儲けたお金で株と不動産を買って大儲けし、財を成した話は有名です。今では世界一の華人経営者です。1997年中国への返還以降の香港は「一国二制度」の下で順調に発展しました。最近では、中国政府の民主派弾圧で香港から撤退する外国企業が増え、中国企業の香港進出が増えているとの報道がなされていますが、香港が中国の経済的な発展にとって不可欠な存在であることには変わりはないでしょう。自由を求めて海外に移住する香港人が最近増えているようですが、したたかな香港人は、香港が一番金儲けし易い場所であることをよく知っています。「逃げたら負け」だと思っている人も沢山いるでしょう。

銀行員として5年間の香港駐在を通じて見た香港の事業家達は、日常生活面では、「医食同源」健康第一の考えが徹底しており、元気で笑顔を絶やさず、社交的で人付き合いが上手です。ビジネスは「人脈が全て」をよく理解し、人脈を大事にします。一旦信用を得て「友人」になると、親の大事な人脈は子供にも引き継がれて

長いお付き合いになります。香港時代に親しくなったボンドグループの元会長アニタ・チャンさん（私立の小・中学校・幼稚園経営、不動産業）の息子アンソン・チャンさんは、亡き母親と私の人脈を引き継ぎ、香港フォーラム参加者を毎年自宅やレストランに招待してディナーパーティーやカクテルパーティーを主催して歓迎されていて、協会会員にとっては貴重な経験になっています。

事業経営者としては、事業目的が明確で金儲けに徹する鋭い金銭感覚を持っています。飲茶の習慣でも分かる通り、人との会食を通じてマーケット情報の収集に熱心です。新しい事業については決断が速く、投資案件については、戦略とタイミング（安く買って、高く売る）が成功のコツだと思っています。経営戦略面では、マーケット動向に敏感に対応するスピード経営、お金を有効に使っています。特に大事な人には大胆にお金を使います。又、少数精鋭での低コスト経営、投資は中・短期投資中心で長期投資のリスクを回避します。銀行取引では担当者を大事にし、自分の信用を活用してしたたかに条件交渉をします。運転資金は、無担保の当座貸越で調達して無駄な利息を払わない、過度に銀行に依存するリスクを避けます。パートナーシップによる事業拡大にも積極的です。香港企業は、中国で事業の許認可権限を持つ地方行政との人脈を構築し、経験を生かした中国リスク管理をマスターしており、日本の中小企業にとっては、中国ビジネスの最適パートナーです。香港政府がコロナ問題にスピーディーに対応しているのはさすがです。優秀な人材が豊富でよく働き、政府も民間もしたたかで賢い香港から学ぶことは沢山あります。

コロナで協会活動も自粛が続いていますが、香港が大好きな会員が多く、心配した退会者がほとんど出ていないのが幸いです。お互いに好意を持ち合っている香港との正常な交流が早く再開されることを願っています。



香港フォーラム交流会 The Fringe Club Anita Chan Galleryにて



## 中京日本香港協会 副会長 福田 之保

### 5年前の香港フォーラムを振り返って

少し前の話になりますが、私は中京日本香港協会の理事として、2016年12月、第17回香港フォーラムに参加致しました。私にとっては、通算2回目のフォーラムとなりましたが、中京日本香港協会からは現地参加のメンバーを入れて、総勢約10名の参加であったと記憶しています。驚いたのは、全国各地協会からの登録者が多数を占め、日本からの参加者数が世界第1位であったことです。香港貿易発展局と全国連合会主催による前夜祭「全国交流会」では、特に関西日本香港協会からの参加者が多く、非常に盛り上がったものとなりました。北海道から沖縄まで、日本全国津々浦々からの協会メンバーが香港で一堂に会し、多くの情報交換や親睦を深めることができました。短い時間ではありましたが、非常に有意義なひと時を過ごせたものと考えております。

香港フォーラムのプログラムの中で、特に印象に残っているのは、香港コンベンション&エキシビションセンター内のメイン会場で執り行われたアワード受賞式です。中京日本香港協会は、全世界の協会の中でも特に優れたビジネス活動を行ったメンバーに授与される「Best Initiative Award」をみごと受賞したのです！これはまさに、当時の会長、副会長など役員の皆様の日頃からの努力の賜物であったと再認識しました。中京日本香港協会の名前がアナウンスされ、訳が分からずとにかく舞台上に上がれと言われた我々メンバーは、壇上で記念の盾をいただき、記念の集合写真を撮ってもらいました。そういう意味でも、5年前の香港フォーラムは、我々メンバーにとって、思い出に残るイベントになったと思います。

その他、フォーラムのプログラムでは、次から次へと様々な産業分野の方々が登壇し、具体的事例を交えながら、興味深いプレゼンテーションを披露してくれました。



香港フォーラム授賞式の記念写真（右から3人目が筆者）

また、主催者である香港貿易発展局のご配慮で、全ての講演には日本からの参加者のために、英日同時通訳をつけていただき、感謝の意に堪えません。さらに、こんなことを言ったら笑われるかもしれませんが、私は、昼と夜に出された食事の豪華さが、いまだに思い出に残っています。



スターバイシス

フォーラム終了後の旅の最後の思い出は、メンバーの皆さんとは離れて、1人でスタークルーズのワンナイトクルーズツアーに参加したことでした。目的は、ワンナイトクルーズがどのような内容なのかを乗船して体験すること、それと船旅自体に興味がありましたので、どのような船でクルーズをするのかを確かめることでした。みなさんも九龍のオーシャンターミナル（註：現オーシャンセンター）に停泊していた「Star Pisces（スターバイシス）」をご覧になられたことがあるでしょう。この船は、排水量約4万トンで、590室、乗船定員が約1,000名の中型客船ですが、日本郵船の「飛鳥Ⅱ」よりは一回り小さいサイズになります。船は夜に出航し、外洋へ出た後に、翌朝の8時ごろには香港の港へ戻りますが、出航して間もなく乗客は先ずどこへ行かれると思いますか？私は、優雅に食事をしてからカジノへ行くのではと予想していましたが、多くの乗客は、出航と同時に一目散にカジノに向かったのです。香港にはカジノがないので、洋上カジノが人気なんだと思いましたが、意外な感じがしました。また、乗客は圧倒的に女性が多いことにも驚きました。日頃のストレス発散やカジノをやりながらの雰囲気や会話を楽しんでいる人も大勢いたと思います。とにかく、カジノは皆の目の色が変わりますよね。まさに「一夜の桃源郷だな！」と思い、このようなツアーが満員になるのも納得ができました。おそらく、今現在は、コロナ禍でクルーズの運航は中止になっているものと思いますが、マカオ以外にも、「香港発のカジノが洋上にある」ことを認識できたフォーラムの旅でした。

いずれコロナが収束し、リアルな香港フォーラムが再開された暁には、また中京日本香港協会メンバーと香港を訪れたいと思っています。またフォーラムの公式プログラム以外にも、香港の新たな一面を見つけることができると考えております。



## 九州日本香港協会 事務局長 崔 耿美

## 九州日本香港協会通常総会開催

令和3年度通常総会を、去る7月12日に福岡サンパレスホテル&ホールにて開催し、冒頭では、石原進会長の開会挨拶の後に香港貿易発展局日本首席代表ベンジャミン・ヤウ氏、大阪事務所長リッキー・フォン氏の来賓挨拶を頂き、当会の参加者にも大変喜んで頂きました。今回の通常総会は理事会、講演会、懇親会も同じ日に開催し、理事会14名、通常総会・講演会は53名、懇親会は41名が参加し、令和2年度の事業報告・会計報告、令和3年度の事業計画・予算案、役員の変更案について承認されました。役員の変更案について、新任役員は副会長に株式会社西日本シティ銀行国際部長豊住慎一氏、理事に株式会社西日本新聞社代表取締役社長の柴田建哉氏が承認されました。報告事項では、新会員の法人10社、個人3名の紹介の後、来る10月開講の第16期チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール (CMMS) の九州の受講予定者8名の報告を行いました。



(左) 総会の議事進行中の石原会長 (右) 講演会の様子

講演会では、香港から来られた社団法人香港日本料理店協会会長（香港日本産食品等輸入拡大協議会座長、Zen Foods会長）の水室利夫氏より、日本食品の輸出の約1/4を占める「香港市場での日本食の可能性」をテーマとしてお話いただきました。福岡県香港事務所前所長の山崎智幸氏からは福岡県農水産品や観光プロモーション等の活動紹介、課題として他国・地域との競争についてお話いただきました、最後には香港貿易発展局大阪事務所次長の田中洋三氏より、香港の日本食事情、香港フード・エキスポ、香港ワイン&スピリッツ・フェア、アジア・グローバルヘルス・サミット、電子商取引プラットフォーム hktdc.com Sourcing等、有意義な情報をいただきました。

今回の総会は、当会特有の穏やかな雰囲気の中、ソーシャルディスタンスを守

りながら、香港専門家の講師や来賓、新会員との交流を通じて、参加者同士の新たなグワンシー (Guanxi) が沢山生まれる場になりました。引き続き、今年度も日本香港協会全国連合会のご支援の下で、役員、会員と共に香港・九州の友好的なグワンシーづくりに励みたいと思います。

九州日本香港協会 新事務局  
「株式会社ふくや」のご紹介

九州日本香港協会は去る10月の令和2年度通常総会にて事務局を「一般社団法人地域企業連合会九州連携機構」から「株式会社ふくや」へ移管しています。ふくやは2020年10月で創業73周年を迎えた、日本ではじめて明太子を製造・販売した会社です。

昭和23 (1948) 年10月5日。博多の街は戦災で焼け野原となり少しずつ復興の兆しが見え始めた頃、博多・中洲の一角に小さな食料品店が生まれました。店主の川原俊夫氏が妻の千鶴子氏と始めた小さな店舗が「ふくや」の歴史の始まりです。川原氏は戦時中の幼少期を韓国の釜山で過ごしましたが、その時に食べていた「たらこのキムチ漬」の味が忘れられず、戦後引き揚げた博多でその味を再現すべく、創意工夫を重ねていきます。そして昭和24 (1949) 年1月10日、商売繁盛を願う十日恵比須神社大祭の日、日本で初めて「味の明太子」を売り出したのです。

「味の明太子」の評判は口コミで次第に広がりはじめ、昭和50 (1975) 年3月の山陽新幹線の博多開業を機に全国に知られるようになり、そして今では博多の味の代表格とまで言われるようになりました。日本国内だけでなく海外の方にも明太子の美味しさを伝えたいという思いから、平成26 (2014) 年3月、香港に明太子専門飲食店「鱈卵屋」をオープン (現在は閉店)。これを皮切りに今では香港の飲食店やスーパーマーケット等への卸売を通じて、更なる明太子文化の拡大に努めています。



(左) 昭和28(1953)年、創業初期のふくや。創業者・川原俊夫とともにガラス瓶に入った〈味の明太子〉もある  
(右) ふくやの海外向けブランド「鱈卵屋」のチューブ入り明太子

# YAMAGATA

山形日本香港協会



## 山形日本香港協会 事務局

### 山形日本香港協会会員紹介 株式会社丸屋本店（後編）

前号に引き続きまして、山形日本香港協会の会員である、株式会社丸屋本店の紹介、後編をお届けさせていただきます。前号では、株式会社丸屋本店が香港に進出されることになったきっかけ、香港進出直後の苦労やエピソードを紹介させていただきました。

今号では、昨年オープンされたばかりの「おにぎり専門店」や香港人のスタッフとのエピソード、新型コロナウイルス禍での状況、香港への進出を考えている方へのアドバイスを、鈴木亮吉社長よりお聞きしていますので、ご紹介させていただきます。

鈴木社長は、2019年10月、おにぎり製造会社となる、SUZUKI FOODS (Flat 02, G/F, Technology Plaza, 29-35 Sha Tsui Road, Tsuen Wan, NT) を設立されました。さらには、昨年2020年の11月には、香港の現地企業との合弁でおにぎりチェーン店Rice Ball Factoryを設立されました。そして、第1店舗目を尖沙咀（香港九龍尖沙咀堪富利士道8A-8K號 嘉芬大廈地下R號舖）にオープンされました。SUZUKI FOODSではおにぎりを提供、合弁先の香港現地企業はスープを提供しています。

Rice Ball Factory 社HP : <https://www.rbf.com.hk/zh/>



1店舗目オープン時の記念写真（左から5人目が鈴木社長）

昨年オープンされ、日本食である「おにぎり」への香港の方の反応について、鈴木社長は、「香港では当然です。元々おにぎりを食べる文化がありません。そのため、私が香港に来た当初（2012年）は認知されていませんでしたが、日本企業のPRや日本への海外旅行客増加の結果、2、3年前と比較して、おにぎりの認知度が格段に上がってきております。また、以前は日本食にも日本米を使わず、中国産等の短粒種がメインでしたがこちらも日本米を使用する例が増えてきております。弊社のおにぎり店のコンセプトはヘルシー、イノベーションですので香港にしかない新しいおにぎりを提供しております」とおっしゃっています。今後の「おにぎり屋」の展望としては、尖沙咀店を皮切りとして、毎月1店舗のペースで店舗を増やしていく計画との事です。

一昨年末から今なお続いている、新型コロナウイルス禍で

の香港の現状についても、お聞きしています。「このような状況になるとは、1年半前は誰も予想していなかったと思いますが、弊社もコロナの影響で売上が3割以上ダウンしております。そこでSUZUKI FOODSの立ち上げと重なったのに加え、コロナ禍で私が日本から離れられなくなりSUZUKI FOODSの稼働が半年遅れてしまったのも影響が大きいです。香港は現在、外国人の来港を原則禁止にしており観光業、飲食業はじめ幅広い業種に影響が出ております」と鈴木社長は述べました（※鈴木社長にインタビューさせていただいたのは、2021年3月ですので、本原稿公開時点では、海外から香港への渡航制限などが変化している可能性があります、予めご承知の程お願いいたします）。

社員をはじめとする香港の方々や従業員の方々とのエピソードについては、「広東語は発音も難しいため、コミュニケーションをとるのが大変ですが、香港の方は日本がとても好きで非常に親切なので、こちらから恥ずかしがらずに大きい声で何回も話すことが大事だと思います。私も香港9年目にしてやっと恥ずかしさがなくなりました。まだ全然広東語は話せませんが、慣れてくるとそれも楽しいです。コロナ禍で今年はまだ出来ていないですが、毎年新年明けに会社のスタッフと食事会を開催しております。麻雀ありゲームありの香港スタイルの宴会も非常に楽しいです。」

最後に、香港へ進出したい方へのアドバイスをお聞きしています。「香港に来てみて感じたのは、やはり現地の肌感でしかわからないことが非常に多いということです。現在は香港も大変な状況ですが、香港の特殊なポジションは他にはないですし、チャンスはまだ多いと思います。香港の事業を成功させるためには香港に住むのが一番だと思います。ただ、周りに相談すれば必ず反対すると思いますし、私も相談されたら反対すると思いますが、反対されてもこちらで事業を成功させる信念とある程度楽観的に考えられることが必要かなと思っています。」



店舗写真



## 北海道日本香港協会 事務局

北海道日本香港協会会員  
日本清酒株式会社ご紹介

北海道日本香港協会の副会長に日本清酒株式会社の川村社長が就任されましたので、本号ではその日本清酒株式会社について紹介致します。

日本清酒は明治5年（1872年）に創業された、札幌で初めて酒造を営んだ柴田酒造店を前身としています。取扱商品は、全国的に名の知られた清酒「千歳鶴」や、道産の原料をふんだんに使った「寿みそ」、「余市ワイン」など幅広くラインナップされています。千歳鶴は全国新酒鑑評会で14年連続金賞を受賞するなど、北海道を代表する銘酒として人気を博しており、地元のみならず、日本各地や香港をはじめとする海外でも愛飲されています。



清酒「千歳鶴」

「千歳鶴」は道都札幌唯一の地酒ですが、その仕込みに使われている水は札幌の母なる川である豊平川の伏流水です。鉄分が少なくバランスの良い水であり、美味しいお酒を造るにはとても適しています。日本清酒が創業以来変わらず札幌の中心部で酒造りを続けているのは、この水が千歳鶴に欠かすことのできない要素だからです。

同社は、札幌市街に清酒醸造を行う「丹頂蔵」や余市



居酒屋「吉翔」の様子



千歳鶴 純米大吟醸と料理

町に「余市ワイナリー」などの各種醸造所を有しているほか、札幌市中心部には蔵元直営の居酒屋「吉翔」など、直営の飲食店が3店舗あります。香港からいらっしゃった方々には居酒屋「吉翔」で、店名と同じ「吉翔」をはじめとする千歳鶴の美味しいお酒を、北海道の美味しい料理とともに楽しんでいただくことができます。メニューの中には日本酒を使った特製の鍋もあり、酒蔵直営店ならではの料理を味わえます。

また、平成14年（2002年）には本社隣接の場所に「千歳鶴 酒ミュージアム」が誕生しました。こちらは札幌の酒と文化を発信する場として作られ、同社の酒造りの歴史を学ぶ資料コーナーや試飲カウンター、直売所があり、オープン以来日本各地や海外から多くの観光客が訪れる北海道の人気観光スポットとなっています。酒蔵の中には伏流水を汲める井戸があるため、ミュージアム内で仕込み水を試飲することもできます。札幌中心部というアクセスが良い場所にあるので、札幌へお越しの際はぜひお立ち寄りください。また、コロナ禍が終息して、海外からの渡航が以前のように元に戻った際は、香港のみなさまにも足を運んでいただけたら幸いです。



千歳鶴 酒ミュージアム



## 宮城日本香港協会 事務局

### 香港貿易に対する宮城県取組み

香港といえば日本食材の最大の輸出先です。2019年の民主化デモ、さらには現在も続いているコロナ禍の影響で、主たる需要先となっているレストランを中心とした外食向けが大きく落ち込むことになりました。日本国内においてもコロナ禍により外食向け需要の落ち込みがあり、これをスーパーマーケットなどの小売やテイクアウト、デリバリー等中食需要の増加にうまく吸収させることが重要な戦略になりました。香港への食品輸出においても同様に従来の外食向けの需要をどのように小売等への需要にシフトさせるかが昨年来の懸案となっています。

宮城県ではこのような状況に鑑み、昨年よりJETRO香港と連携し、県内企業の商品を新たな販路に乗せるべく事業に取り組んでいます。具体的にはコロナ禍で海外渡航に制限のある中、スムーズに商談が行えるような仕組みの構築です。電子カタログの作成、サンプル送付の支援、WEB商談のマッチングなどです。昨年はこの仕組みを通じて、米、鶏卵、日本酒といった品目で新たな取引が成立しました。特に米の輸出に関してはコロナ禍とは関係なく国内需要が継続的な減少傾向にある中、海外販路の開拓は最重要課題となっていました。宮城県には「ささにしき」、「ひとめぼれ」といった全国的にも知られた銘柄があり、現在でも国内における流通価格は上位に位置付けられています。とはいえ、日本の人口減少や米離れなどにより新たな需要の開拓は不可欠な状況です。



JETRO 香港常設展示と商談風景

そんな中、今回のJETRO香港との連携事業により、現地で新たな日本食のムーブメントとなりつつあるおむすびチェーン「華御結」を展開する百農社さんとの取引が始まりました。百農社さんは現在香港で約90店舗を展開し、使用している米はすべて日本から輸入しています。米の品質にこだわり、特定産地で良質かつ均質でまとまった数量を安定供給できることが条件でした。これに応えられる生産者に打診し、サンプル送付や試食などを経て複数の産地で取引が成立しました。思い返せば



JETRO 香港常設展示風景

2016年に宮城日本香港協会の春節セミナーで百農社董事の山田さんが宮城県においでになり、「につぼんのおむすび文化！香港へ、そして世界へ！」と題して講演いただいたことがきっかけでありました。宮城県のキャラクターがむすび丸であることから、「いつか宮城米を使っただきむすび丸でPRさせてください！」とお話ししたのでした。あれから5年が経ち、ようやく実現しようとしているところです。

### 学生部の活動

20年3月に発足した学生部は、現在オンラインを中心に毎月の活動を継続しています。特に好評だったのが、3月での料理交流会。香港でもよく食べられる「大根餅」を作ったこの交流会では、日本の参加者の皆さんからは「香港の皆さんが普段食べている味が楽しくて嬉しい」、香港の参加者の皆さんからは「日本の皆さんが自分たちの親しんでいる味を喜んでくれて嬉しい」という喜びの感想を多く頂きました。「本当は香港（日本）に行きたい」という気持ちをお互い率直に伝えながらも、文化紹介、ゲーム、お料理と、オンラインでもまだまだできる分野があると感じています。引き続き、日港での文化交流をここ宮城から進めて参りたいと思います。



香港宮城料理交流会の案内と食材





## 沖縄日本香港協会 事務局

### 香港の高級スーパーマーケットにおける沖縄産品の動向について

香港の高級スーパーマーケットであるシティ・スーパーは、沖縄に支社を設立、沖縄国際ハブ事業を活用した事業を展開、沖縄の産品の海外輸出にも大きく貢献しています。現在のビジネスをシティ・スーパー・ジャパン沖縄支社の花田哲郎氏にインタビューさせて頂きました。



シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社 花田氏

#### ——シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社が設立された経緯について教えてください

沖縄県が実施している全国特産品流通拠点化推進事業を活用して、香港に新鮮な生鮮食品を中心にタイムリーに輸出できることを目的に2017年12月に設立いたしました。推進事業の補助制度を活用し、那覇空港を利用すると全国の空港から輸出するより航空機による輸送コストが約4分の1になることと、那覇・香港間（現在運休中）が約2時間で、「前日発送すれば翌日夕方には店頭に並ぶ」という沖縄の地理的優位性を生かしたサプライチェーンが構築できるという利点に着目致しました。

また、近年の香港における人件費の上昇やバックヤードスペースの制限などから、沖縄が香港のバックヤード機能を持つことができないかと考えています。具体的には生鮮野菜や甘藷類を沖縄でカット・パックして香港に運び、そのまま店頭に並べ、香港のバックヤードの負担軽減を目指すものです。

#### ——沖縄支社で取り扱っている主な製品を教えてください

週2便の航空便と月一程度の常温船便・冷凍船便を利用して、県産果物（マンゴー、パイナップルなど）、野菜（ゴーヤー、オクラ、冬瓜など）が主なものです。また本土産のカボチャやキャベツ、白菜なども取り扱っています。特に、沖縄産のオクラやインゲンなどの野菜は人気が高く、需要が高まっています。

#### ——高級スーパーマーケットであるシティ・スーパーのトレンドを教えてください

最近では日本産のオーガニック食品、有機JAS認証を受けた商品の人気があります。また、日本の果物（イチゴやシャインマスカットなど）は根強い人気があります。香港の巣ごもり需要を反映してか、簡単に調理できる冷凍食品の取り扱いも多くなっています。

#### ——今後、沖縄の産品で可能性があるものがありますか

香港の近くの華南地域では、ミニ青梗菜やパクチョイ、菜心などの中華野菜が生産されており、香港でも人気があります。沖縄と華南地域の気候は似ており、沖縄で中華野菜ができないかと考え、菜心に関しては沖縄の契約農家様に生産して頂いて、香港に輸出しています。香港で人気がある中華野菜は、沖縄で多くの種類が生産されており、更にオーガニックであれば大きな需要があると考えています。

#### ——シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社の今後の展開について教えてください

会社の方針として、沖縄支社の事業を拡大していきたいと考えています。具体的には中華野菜の沖縄での生産拡大や物流網を利用した冷凍食品の拡充に加え沖縄のバックヤード機能を更に高めていきたいと考えています。

一方、新型コロナウイルスの影響により、直行便が運休となり、沖縄の産品も東京経由となって、リードタイムの増加や品質保全に伴う梱包材のコスト増などが発生しています。沖縄から直接輸出できた甘藷類も、本土経由となることから植物検疫の点で大きな制約を受けております。また、直行便の運休に加え、全国特産品流通拠点化推進事業の一時停止（8月1日～）により、輸出への影響が更に大きく出てきているのが現状です。

このような状況の中、私共としては、直行便の再開や補助制度の再適用を働きかけ、シティ・スーパー・ジャパン沖縄支社の事業をさらに拡大し、沖縄の産業発展に貢献できればと考えております。引き続きよろしくお願いたします。



シティ・スーパーの店内

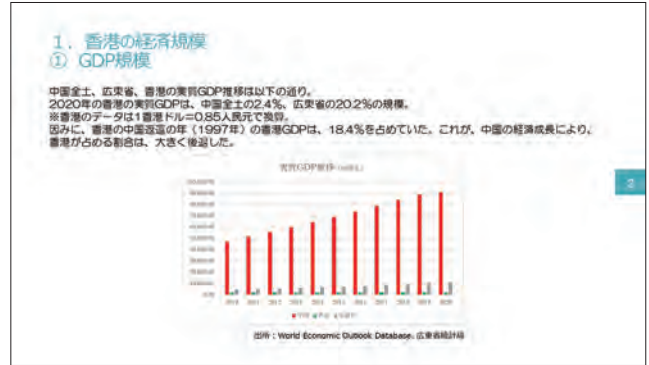


## ビジネスセミナー「香港ビジネス環境の現状と未来」の開催

広島日本香港協会では、県内企業の香港を中心とした中華圏へのビジネス展開を支援するため、8月3日から23日まで、香港を取り巻く環境や最新の経済情勢について、様々な視点から紹介した、ビジネスセミナー「香港ビジネス環境の現状と未来」を開催いたしました。

今回のセミナーは、「香港ビジネス環境の現状と未来」というタイトルのもと、広島日本香港協会事務局の公益財団法人ひろしま産業振興機構との共催により行いました。昨年はオンラインによるライブ配信と会場での聴講が可能なハイブリッドセミナーとして開催しましたが、本年は引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点と、より多くの方に聴講いただくという観点から、オンデマンド配信での開催となりました。開催に当たっては、広島日本香港協会の会員とひろしま産業振興機構の国際賛助会員の皆様にご案内しました。さらに、ひろしま産業振興機構のホームページ、メルマガによる情報発信の外、広島県内の産業支援機関などの協力も得て、広く周知しました。

講師は、水野コンサルタンシーグループ代表の水野真澄様にお願しました。水野様は上海・広州・深圳・ベトナム・日本に拠点をもち、中国・アジアでビジネス展開する日系企業にコンサルティングを行う傍ら、新聞・雑誌・TV等での活動を行われています。また、広州市



ビジネスセミナー資料(抜粋)

シンクタンクメンバー(広州市投資促進中心専任専門家)、肇慶市顧問、香港貿易発展局、横浜市(IDEC)などのアドバイザーを務められるなど、香港並びに中国の情勢に造詣が深いことで知られています。

講演内容は、「香港の機能と今後」として、(1)香港の経済規模、(2)香港失業率とGDP成長率の推移、(3)香港の産業構成、(4)香港経済の今後(貿易、金融、観光、物流)について、「香港と中国本土との関係」として、(5)香港の中国返還、(6)アジア金融危機、(7)SARS蔓延、(8)CEPA(中国本土と香港の経済貿易緊密化協定)、(9)オフショア人民元、(10)グレーターベイエリア構想の推進、(11)海南自由貿易港(離島免税、全島保税化)、(12)中国本土と香港について解説いただきました。香港経済の今後については、貿易・金融・観光・物流と産業毎の予想や中国本土と香港の関係が述べられており、大変興味深い内容となっております。中でも、返還後の体制維持期間(50年間)経過後の考えとして、香港は中国本土の自由貿易試験区と同様の位置づけになるのではないかとこの見解もあり、香港の自由な外貨管理・税制をなくすことは、ビジネス的経済合理性の面から中国にはメリットはなく、自由なビジネス制度(税制・外貨管理等)は残ると見られると述べられていました。

セミナーの聴講者からは、「日本から見ているとなかなか香港の実態が分からない中、水野さんでなければ話せない洞察力に富んだ内容だった」「あまり語られることのない、体制維持期間経過後の考えが示されており、興味深く考えさせられるものだった」「中国本土と香港それぞれの視点から考えが述べられており、とても参考となるセミナーだった」などの意見が寄せられ、香港の現状と未来について、理解を深めることができました。

この場を借りまして、講演いただいた水野様に厚くお礼申し上げます。

今後も広島日本香港協会では、会員の皆様の興味や関心のあるテーマについてご意見をいただきながら、最新のビジネス関係情報を提供していくと共に、香港貿易発展局や関係機関と連携し、より良いビジネスサポートができるよう努めてまいります。

主催:公益財団法人ひろしま産業振興機構 広島日本香港協会

## 〜香港ビジネス環境の現状と未来〜

オンデマンド配信

県内企業のビジネス展開につなげていただくため、香港を取り巻く環境や最新の経済情勢について、様々な視点からご紹介いたします。

【セミナー】  
■申込期間: 令和3年7月1日(木)〜令和3年8月23日(月)  
■配信期間: 令和3年8月3日(火)〜令和3年8月23日(月)  
■セミナー参加費: 無料  
※オンライン配信なので、オフィスや自宅などご自分のペースでいつでも視聴できます!

セミナータイトル  
「香港ビジネス環境の現状と未来」  
(1) 香港の経済概況と産業構造  
(2) 中国本土との関係  
(香港返還、アジア金融危機、CEPA、オフショア人民元、グレーターベイエリア構想、海南自由貿易港との関係)  
(3) 米中関係と香港  
(4) 香港入出境の概況  
(5) 香港ビジネス環境の今後の展望

水野コンサルタンシーグループ  
代表 水野 真澄 氏

1983年生まれ、1987年に早稲田大学経済学部経済学卒業後、丸紅に入社。財務経理本部、丸紅証券株式会社、丸紅証券株式会社(株)、丸紅証券株式会社(東京)、丸紅証券株式会社(香港)、丸紅証券株式会社(上海)100%出資コンサルティアンドアドバイザリーを経て、2008年に退社。同年香港に Mizuno Consultancy Holdings Ltd. を設立し、現在は上海・広州・深セン・ベトナム・日本に拠点をもち、中国・アジアでビジネス展開する日系企業にコンサルティングを行う傍ら、新聞・雑誌・TV 等での活動を行う。

●申込方法  
1.申込みは、右のQRコードもしくはひろしま産業振興機構HPよりお申込みください。  
ひろしま産業振興機構HP: <https://www.hiroshimaecon.or.jp/organization/business/>  
2.本セミナーの参加については、事務局の「本セミナー利用案内・注意事項等」をご確認いただき、同意の上、お申込みください。主催者は、参加者が参加申込をしたこと、和暦条件等に同意したものとみなします。

ビジネスセミナーチラシ




**新潟日本香港協会 事務局 渡邊 明子**
**新潟日本香港協会  
令和3年度通常総会を開催**

新潟日本香港協会では、去る5月13日（木）にホテルオークラ新潟にて、新潟日本香港協会令和3年度通常総会を開催いたしました。今回の総会は、新型コロナウイルス感染対策のためホテルでの対面形式とオンラインの併用という形で行いました。協会としては初めての試みとなりましたが、対面・オンラインともに多くの会員の皆様にご参加いただき、深く感謝申し上げます。



香港貿易発展局日本首席代表のベンジャミン・ヤウ氏

前年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、通常総会につきましては書面決議にて実施し、その他のイベント・セミナー等もオンラインでの実施となっていたため、当協会としての対面での会合を実施できたのは、2020年2月の春節セミナー以来1年3か月ぶりとなりました。当初は懇親会も行う予定で準備をしておりましたが、直前になって新潟市内でも新型コロナウイルスの陽性者が急増したため、安全を第一に考え、やむを得ず懇親会は中止といたしました。私自身は去年4月に事務局に着任してから初めての対面での会合だったこともあり、懇親会ができず残念ではありましたが、このような状況下で無事総会を開催できたことを非常にありがたく思っております。来年は懇親会も安心して実施できることを心より願っております。

また、当日は香港貿易発展局日本首席代表のベンジャミン・ヤウ様と、香港貿易発展局東京事務所長伊東正裕様にお越しいただきました。総会后、ベンジャミン・ヤウ様からのご挨拶をいただき、その後、伊東様から、「広東・香港・澳門大湾区（GBA）におけるビジネス・チャンスと香港が果たす役割」をテーマとしたセミナーのご講演をいただきました。大変ありがとうございました。

ました。セミナーでは、大湾区の地域発展計画についてや大湾区における香港の役割、香港の活用法や香港と日本・新潟との交流についてなど、様々な観点からお話しいただき、大変勉強になる内容でした。香港ではドン・キホーテをはじめとする日系企業の進出が進んでおり、食品の輸出も大きな割合（輸出国／地域の構成比1位）を占めているとのこと。生卵の輸出も行っているということで、新鮮でリアルな情報をお伝えいただきました。また、今後も香港の国際的ゲートウェイとしての機能は不変であることも学ぶことができ、今後新潟と香港の交流もさらに深まることに期待が膨らみました。

コロナウイルスが猛威を振るい、様々な制約がある中で、こういった形でベンジャミン・ヤウ様と伊東正裕様のお二人にもお越しいただき有意義な情報を得る機会をいただけたことにこの場を借りて改めて深く感謝申し上げます。ご多忙の中、またウイルス禍の厳しい状況下でご参加いただきました皆様にも、改めて、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

コロナウイルスの収束がなかなか見通せない状況の中、一刻も早く安心して国内外の往来ができる世の中になることを願うばかりです。2019年10月より2020年3月までは、新潟空港と香港空港を結ぶキャセイドラゴン航空の季節運航の国際定期便が就航しておりました。コロナウイルス収束後、観光を含め香港と新潟の往来が再び活発になることを期待しております。コロナ禍ではオンライン会議やイベントも普及し、手軽で便利な交流ができるようになりましたが、やはり人と人とのリアルな関わりや実際に他地域を訪れて肌で異文化を感じる体験は、生活において不可欠であると痛感する毎日です。私個人としては当協会事務局に着任した時からコロナ禍であったため、各種イベントやセミナー等、早く気兼ねなく安心して集まれる状況で開催したいと切に願っております。しばらくは我慢の日々が続くかと存じますが、皆様におかれましてもどうかお体ご自愛の上お過ごしください。



通常総会セミナーの様子



## 高知発！食の6次産業化プロデューサーによる香港市場開拓

依然として終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。そんな厳しい中で開催された東京オリンピック、パラリンピックでは、各国選手の活躍には本当に勇気をいただきました。開催には賛否もありましたが、記憶に残る大会だったのは言うまでもありません。この経験が未来につながることを切に願っています。

高知協会においては、総会をはじめ定例会や各種勉強会を予定しておりましたが、度重なる緊急事態の影響で中止または延期を余儀なくされております。本当に忤怩たる思いではありますが、前を見据えて活動を継続してまいります。

さて、前号ではコロナ禍においても悲観することなく、邁進し続ける当協会森本会長の活躍をご紹介いたしました。今号では、



香港の夜景をバックにした松田さん

は、当協会発足時から中心にご尽力をいただいている、松田高政さん（高知日本香港協会副会長）の活躍を全国の皆さんに紹介いたします。

松田高政副会長（株式会社こうち暮らしの楽校代表取締役）は、自社の経営にも大きく関わりのある、6次産業化プロデューサーとして、高知県内外はもとよりアジア圏での食に関するビジネスに取り組んでいます。この6次産業化プロデューサーは国家検定として認定されるのですが、食プロレベル1~6という段階があり、なんと松田さんは世界でただ一人の最高位レベル6の認定を取得しています。ちなみに事務局長の私はレベル2ですので足元にも及んでおりません。現在では、国立高知大学が運営している「土佐FBC（Food Business Creator）」の特任講師も務め、食で稼げる人材づくりに注力しています。



美糖質タルトフロマージュ

その松田さんの、決して順風満帆ではない経歴が面白い。

大学卒業後、地域活性化コンサルタントとして、高知県内全ての市



初めてプロデュースした《きびなごフィレ》



高知産の沢渡茶大福を使用した香港で大人気スイーツ

町村に入り込み、農林業、福祉、観光、インフラ等、地域の課題に取り組む中で、少しずつ目に見える成果を出すようになり、その経験を活かし平成19年、当時35歳で独立。今では定着しているオーガニック食材をメインにした店舗を開業するも、まだ時代が早すぎたせいもあり（本人曰く、時代が俺に追いついてなかった）、赤字が膨らみ早々に撤退。しかし同時期に人生で初めてプロデュースした「きびなごフィレ」が都会でヒット（現在もロングセラー中）したこともあり、食のプロデューサーとしての

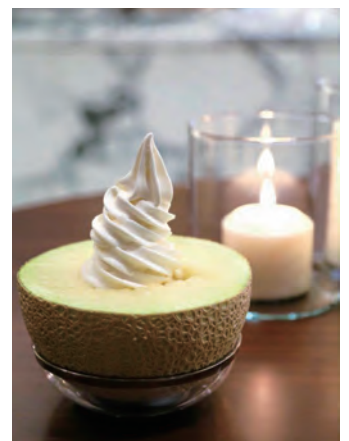
の道を展開し、その後も飲むジュレやアイスブリュレなど多くのヒット商品をプロデュースしています。そして香港ビジネスにおいては、香港で人気のスイーツ店「i CREMERiA（イ・クレメリア）」と提携し、写真にもある沢渡茶大福や、メロン半玉を使った人気のメロンアイスのメロンを提供するなど、香港の皆さんにも喜ばれるプロデュースもしています。

「問題はすべて現場にある」という言葉があるように、松田さんも生産者の話をよく聞き、現場を視察し、開発者とともに商品をブラッシュアップし、命を吹き込んだ商品を世に送り出しています。

現在最も力を注いでいるのが写真の一つ「美糖質タルトフロマージュ」。糖質を気にする方も安心して食べられるスイーツを、同志や障がい者雇用施設の方々と共に開発し、先般、にっぽんの宝物JAPANグランプリにおいて見事に審査員特別賞を受賞し、その商品売上の5%を地域の学生に対し、返済不要の給付型奨学金として寄付しています。

そんな松田副会長は高知協会内でも大人気！皆さん、商品は是非ネットで検索してみてください。応援よろしく願います。

次の号にはコロナが落ち着いていることを心から祈念しています。



イ・クレメリアで人気のメロンは高知産



# 飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (06) 4705-7030  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易發展局内 (2021年7月1日付で事務局移転)

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748  
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310  
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2  
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西  
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001  
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570  
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301  
株式会社オトル内



# Z's MENU

FROZEN MEAL

## 日本香港協会 会員特典

キャンペーン期間：2021年11月30日まで

日本最高峰の冷凍食品 Z's MENU を 5,000 円以上ご注文で 10%OFF  
本特典は、お電話でのご注文に限ります。

お電話で『飛龍を見た』とお伝えいただくと特典の対象になります。

ご注文は下記 SL Creations お客様センターへ

0120-73-2211

受付時間：9：00～17：00

(土・日・祝及び夏季休業・年末年始を除く)

Z's MENUのご紹介

<https://zs-menu.com/>



 **SL Creations**

株式会社 SL Creations 〒144-0043 東京都大田区羽田 4-3-1 <https://s1-creations.co.jp/>

令和2年4月、シュガーレディグループは「SL Creations Group」に社名を変更しました。